

(別添3)

【関ヶ原町】

校務DX計画

令和5年3月に文部科学省が「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言をとりまとめ、校務系・学習系のネットワークの統合、次世代の校務支援システムの整備、クラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用、これらにより教職員や学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であると示している。

また、令和5年8月中央教育審議会質の高い教師の確保特別部会においても、1人1台端末の積極的な活用、クラウドツールを活用した教職員間での情報交換の励行、会議資料のペーパーレス化などの取り組みを行うことが必要と示されている。

これらを踏まえ、関ヶ原町における校務DXに係る具体的な取組を次のように定める。

1. 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、本町の教育系ネットワークは「校務系」と「学習系」の2つに分離しており相互にアクセスできない構成としている。令和7年度に行うサーバーのクラウド化に伴い、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づいたセキュリティ対策を十分に講じた上で、「校務系」・「学習系」のネットワークの統合を図る。

2. FAX・押印等の制度・慣行の見直し及びペーパーレス化の推進

FAXと押印の見直しは、校務の効率化、教員の働き方改革に必要な事項であることから、ルールの見直し等を含め積極的に推進を図る。

ペーパーレス化については職員会議等で統合型校務支援システムの掲示板機能やタブレット端末を活用し会議資料の削減を図っている。また、保護者への連絡、通知についてもメール配信アプリを活用するなど、ペーパーレス化を進め業務改善を図っている。

3. 次世代校務支援システムの導入について

令和元年度より導入している統合型校務支援システムはオンプレミス型であり、教職員が自宅や出張先で校務処理ができないなどの課題がある。現在、令和8年度の更新に向けて岐阜県主体で進められている共同調達部会において、次世代型校務支援システムの一括導入が検討されている。当町でもこれらを導入し、名簿情報の不必要な手入力作業の一扫や、各システム間の連携を行い業務の平準化や教職員の業務の負担軽減を図りたい。